

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村三番地 あんず(1階)		
所在地	石狩市梅川3条3丁目4番		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和2年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvosvoCd=0177600251-00&ServiceCd=320&Type=search](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0177600251-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和元年12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階「笑顔」を絶やさず、心豊かに、その人らしく安心できる生活を大切に！！2階「笑顔で明るくあいさつ！！」共に過ごす時間を大切に！！という理念の下、職員は毎日笑顔絶やさず、1人1人の生活パターンを尊重し、居心地の良い生活の場作りを心掛け、日々安心して生活を送る事ができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設16年目を迎える2ユニットの事業所で、自然が感じられる環境であると同時に幹線道路沿いにあるため手稲区の商業施設などへも車で利用しやすい場所に立地しています。法人は他にグループホーム3事業所を運営し、各管理者と主任が参加する社内研修に外部講師を招き学びを深めたり、管理者会議の開催や代表者が事業所を訪れ職員へ講話や想いを伝えるなどしています。あんず・なつめユニットは昨年其々理念を見直し、掲げた文言を基に支援を心がけています。職員は利用者への関わりを多く持ち、利用者と共に過ごす関係を大切に、また時間に縛られることなく利用者のペースに合わせる自由な暮らし、好きな事を楽しんでもらう支援を続けています。それにより利用者自ら自発的な言動があるなど職員との信頼関係が窺えます。作業療法的な季節に合った物づくりや季節を盛り込んだ習字、種類豊富な文字合わせ、脳トレを交えた歌や体操など、職員はアイデアを出し合い提供しています。町内会の協力が得られ利用者が夏祭りや敬老会へ参加しており生活の幅を広げています。生活の延長線上に看取りがあるという姿勢で医療機関との連携を密にし、これまで多数のターミナルケアを行っている事も特筆すべき点です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果		項目		取組の成果	
		↓該当するものに○印				↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H30年1月のミーティングにて「笑顔を絶やさず、心豊かに、その人らしく、安心できる生活を大切に」という新しい理念を作り、それに基づいた支援を心掛けている。	昨年度これまでの理念を見直し、職員個々の想いを紡ぎ合いあらず・なつめ其々のユニット独自の理念を新しく標榜しています。介護のあり方を事業所全体、また職員一人ひとりに息づかせるものとなるよう、理念は要所に掲げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや敬老会に参加し地域の方と交流している。数年に一度は班長としての活動も行っている。	社会福祉協議会のボランティアが事業所クリスマス会に訪れ、三味線や紙芝居などを披露しています。町内会の夏祭りに出かけ縁日等の見学や飲食、敬老会の地元よさこいチームの演舞では利用者も子どもと一緒に鳴子を持ち一体感を味わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まちかど介護相談所のポスターを外に向け貼っている。管理者は市から相談員として認定を受けている。運営推進会議でも、何かホームとしてできる事があれば、積極的に協力したいと、地域の方に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月一回開催し、日頃の取り組み等を報告、ご家族様からいただいた意見は全職員に伝えサービスの向上に努めている。	避難訓練の様子、利用者の日常生活や行事の様子を映写して事業所活動の理解に繋げ意見交換しています。消防署予防課の担当者が出席し災害対策の助言を得ています。当会議で身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会を実施しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の介護相談員が来訪、運営推進会議や地域ケア会議等でも、情報交換等を行い協力関係の構築を図っている。	2ヶ月に1度、市の介護相談員が訪れ利用者等と面談したり、市の担当者が運営推進会議等で来訪しています。管理者は地域ケア会議、グループホーム連絡会に出席し、災害時での困り事、研修案内、グループワークなどにより情報や連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針に基づき、2ヶ月に1回、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を行っている。身体拘束、抑制防止マニュアル等を使用し、年2回研修を行っている。また、職員同士で日常的に意見交換を行い、日頃の支援に反映させている。	「身体拘束・抑制防止マニュアル」「身体的拘束等の適正化のための指針」を整備し、運営推進会議メンバーにより2ヶ月に1度、委員会を開催しています。内部研修を10月に実施しており、次回は今年中に開催する予定です。利用者の状態像の変化に伴うリスクについて家族へ説明しています。立地による交通安全対策の必要性により玄関を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがある。虐待やそれにつながる不適切なケアがないかミーティングや申し送り等で話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生年後見人制度を利用されている方がおり、市の研修に参加したり、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約等の際は、担当者が十分な説明を行い、理解や納得のできない点があればいつでも連絡していただけるような体制を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置している意見箱を気軽に利用していただけるよう感想箱という形に変更している。ご家族様にアンケートを実施し意見を運営に反映させている。	昨年度、家族アンケートを実施しており、次回は来年度行う予定です。家族へはユニット毎の事業所便り・写真館(便り)、利用者個別の内容の便りを送付しています。職員は利用者からの食事や買い物のリクエストに応え、また、介護相談員へは食事が美味しいなど意見が出されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は日頃から、コミュニケーションを図るよう努めている。管理者会議を毎月開催し、職員の意見や提案についても話し合い、ホームの運営に反映させている。	代表者は事業所に頻回に訪れ、講話を交え支援における指針を伝えています。職員との面談は適宜、管理者が行っています。勤務時間、希望休制度など職員の意向や希望に対応しています。職員はいくつかの係りを担い中心となって進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は積極的にホームを訪れ、職員に声を掛け一人一人の努力や勤務状況等を把握している。昇給、労働環境、条件を整備し、職員の意欲向上等を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は積極的な研修参加を呼びかけている。事業所ごとバランスを考え計画的に行い、実施状況も職員に報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りや情報交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が本人と面談を行い、困っていることや不安なこと、要望等を確認し、物事の背景に気を配りながら、会話を多くし信頼関係の構築に努めている。		
----	--	-----------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学や面談の際に、ご家族から不安な事や要望等を聞き、その後も何かあれば遠慮なく伝えていただけるよう、初期から信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が望むサービス、状態を確認し、優先順位を見極め、支援を開始している。他のサービス事業所との連携や調節等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等、それぞれができること、得意なことに積極的に取り組むことができるよう配慮している。色々な話をしながら職員と利用者が共に家事やレクリエーション等に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が変わった事があれば、すぐにご家族に連絡している。面会時や毎月のお手紙でも日頃の様子を伝え、連携をとりながら本人の支援を行っている。ホーム主催の行事にも参加していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙のやり取りの支援や、来客の歓迎をしている。貼り絵で北海道地図を作り、職員、利用者の出身地に顔写真、名産品を表示し思い出話のきっかけとしている。	職場で一緒であった方の訪問があります。家族との手紙のやり取りや利用者同士で手紙を出しあっており、職員はサポートしています。北海道地図に利用者の出身地や特産物などを表示し、会話や回想に役立っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の相性等を把握し、日常の関わり合いの中で、さりげなく仲介役を務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話をしたり、気軽にホームに来ていただけるような関係を築き、相談や安心できる場所となるよう努めている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を記録に残し、希望や意向の把握に努めている。直接訴えられない場合には、ご家族から情報を得たり、日々の様子から思いを汲み取り、支援に反映させている。	職員は利用者に関わり関心を払い、思いや意向の把握に努めています。言葉の表出が困難な場合は、表情やうなずきなどで利用者の意向を確認しています。把握した内容は、介護記録にその都度記し情報を蓄積しています。	
----	---	--------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際に、自宅、入院先、入所先に伺い、生活歴、趣味等の聞き取りを行っている。入居後も、何気ない日常会話から、ご本人の得意な事を探り日々の生活に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の日々の生活の様子を介護記録に記載し、心身状態、特異な点を中心に申し送りで伝えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、ご本人、ご家族の意向、医療機関の意見を踏まえた上で、全職員からの意見、アイデアを取り入れ現状に即した介護計画を作成している。実施状況の把握の為に、ケアプランの項目が記入されているチェック表を活用している。	利用者の担当職員が評価を行い、全職員の確認等を得て計画作成担当者がケアカンファレンスの要点を纏めています。本人、家族等の関係者から意向や意見を聞き新たな介護計画を作成しています。介護計画書の他に独自の書式の「個別介護サービスシート」を活用し、支援方法を詳細に記載し職員間で支援の統一を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事業所独自の介護記録を使用しており、日々の生活の様子や、変化等を記録している。また、連絡ノート、申し送りで職員間での情報の共有をしながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、職員同行の病院受診(通院)等の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーの利用、三ヶ月に一度の訪問理美容、町内会行事の参加、ボランティアの方の訪問による余興等、地域資源を活用し生活を送る事ができるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療の他に、24時間いつでも連絡し相談できる体制が整っている。主治医より、ご家族に直接病状について説明していただき、信頼関係を築く事ができている。	利用契約時に医療に係る内容の説明を行い、かかりつけ医を取り決めています。月2回の内科医による訪問診療の体制を整備し、受診後、家族へ居宅療養管理指導書を送付しています。眼科や整形外科などは主に家族が対応しています。職員間の連絡ノートに医療内容を記載しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックを受け、日々の健康状態、健康管理について気軽に相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、ご家族との連携を密にし、早期に退院できるよう努めている。個々に利用者の緊急医療情報を作成し、医療機関との情報交換に使用している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、協力医療機関、ご家族、職員との話し合いの場を設けている。事業所でできる事をご家族に説明しながら方針を決め、チームとし支援できるよう、取り組んでいる。また、看取りに関しての書類を整備している。	「重度化した場合における対応指針」「終末期の対応に関する意向確認書」を整備し、同意を得ています。開設時よりターミナルケアに取り組み、看取りを行っています。状態変化に応じ、家族、医師、事業所間で話し合い、方針を統一しています。これまでの看取り経験を元に管理者が講師となり内部研修にて学び合う機会があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてのマニュアルがあり、ミーティング等で研修を行っている。また緊急連絡網整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと避難訓練を行っている。運営推進会議を通し近隣の方に協力していただける様に働きかけている。	日中・夜間を想定した火災避難訓練を消防署の協力を得て実施しています。次回、2月に予定している訓練では協力者として隣接する事業所の協力を得る予定です。AEDを設備し、災害備蓄品を確保しています。職員は臨場時に備え収容避難所の現地確認を行っています。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	浴室はカーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。言葉遣いや適切な言動があった際は職員間で注意をしあっている。	代表者は職員ミーティングに参加し、利用者への対応や言葉遣いについて講話しています。また、内部研修の機会に接遇について学んでいます。個人記録類は保管場所を取り決め、管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、一方的な声掛けではなく、本人が自己決定できるような声掛けを心掛けている。日常の献立やおやつ等の要望を献立に取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	リビングや居室で気の合う利用者同士が、一緒に歌を唄われたり、談笑されたり、自室にてテレビを観て過ごされたり、思い思い自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	三ヶ月に一度、馴染みの訪問理美容主張サービスの方に来て頂き、思い思いのヘアスタイルにさせていただいている。本人の好みの着替えやお化粧される利用者の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が一週間交代で作成している。利用者の誕生日には、本人の食べたいもの間きメニューに取り入れている。食事の盛り付け、片付けは利用者の方と一緒にやっている。	ユニット毎に職員が1週間分を献立しています。季節の行事食ではおせち料理も提供しています。誕生日は本人の食べたいものやケーキを手作り祝っています。畑の収穫物が食卓に上ったり、公園での弁当やレストランでのバイキング、戸外で焼肉をするなど変化をつけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分、食事は介護記録に記入し、全職員が把握できるようになっている。利用者それぞれに合わせた食事の形状や食器の工夫等、栄養面や水分量の確保に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、準備、見守りをし、介助が必要な利用者には介助をする等、一人一人にあった口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日頃より、利用者の行動パターンの把握や時間の間隔が空いてる時など、さりげなく声を掛けて、気持ちよく排泄できるように支援している。	個人記録に排泄状況を記録しています。利用開始後にリハビリパンツから布パンツに移行した利用者があるなど、半数が尿意便意の自覚があり自立しています。着座自体を失念している場合は、職員が隣に座るなどしてモデリングしスムーズな排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が不足しないような献立作りや、ホーム内の散歩や体操等、身体を動かす事を目標とし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	入浴は週2回行っており、順序や湯温等利用者の希望を取り入れたり、入浴中に職員と歌を唄ったり、会話を楽しんだりコミュニケーションの場にもなっている。	午前午後に拘らず、本人の気分の乗っている時や状況に応じて声かけし週に2回入浴しており、ターミナルケアの利用者は居室で全身清拭や洗髪をしています。入浴時は歌を歌ったり会話をはずませています。入浴後は、クリームやローションを塗り皮膚のトラブルを防いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムを把握し、希望や状況に応じ睡眠や休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の情報は一人一人ファイルをしており、職員全体で把握している。薬の効能、副作用、食材との相性等細心の注意を払っている。服薬後の変化は協力医療機関に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意な事を役割として行っている。また季節感のある創作活動やレクリエーションで気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望、体調、天候を考慮し、ホーム周辺の散歩や玄関前での外気浴などを日常的に支援している。	天候の良い時期は町内会を一巡りしたり、休憩しながら桜木のある公園へ散歩に出かけています。事業所前のベンチで外気浴したり、野菜や花々のプランターに水やりをしています。ふれあいの森公園の散策や外食、町内会行事への参加、また、家族と一緒に外出を楽しむ利用者がいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談の上、本人の希望や必要に応じて物品の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、お手紙や年賀状等のやり取りができるよう、その都度支援している。電話使用の支援方法を利用者毎に個別介護サービス書に明記している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の装飾や利用者が作成した作品を展示している。利用者四季を感じて心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	キッチンと対面式のリビングダイニングは明るく、季節の飾りや利用者の作品類の掲示、植物が置かれています。リクライニングチェアや利用者個々の状態に合うテーブルを配置しています。加湿器、空気清浄機を設置し、レースのカーテンで陽光の調整を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、一人掛けのリクライニングチェアが複数台配置しており、思い思いに過ごす事ができるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、利用者にとって使い慣れた物や、馴染みの物を置くことで、その人らしい環境作りをし、昼夜共に安心して過ごす事ができるよう配慮している。	居室入り口に本人の写真を掲示し自室と分かる工夫をしています。居室内に大型のクローゼットが備え付けられています。家具や調度品など馴染みの物が置かれていたり、好みのポスターや家族の写真などが飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、身体機能の変化に合わせ、手すりの設置、居室の移動等の対応をし、安全に配慮している。また、居室前やトイレには顔写真や名前を明示しわかりやすいよう工夫している。		